

オオダイアシベニイグチ *Boletus odaiensis* Hongo

担子菌門 Basidiomycota ハラタケ亜門 Agaricomycotina ハラタケ綱 Agaricomycetes

イグチ目 Boletales イグチ科 Boletaceae ヤマドリタケ属 *Boletus*

供試標本

茅野市八ヶ岳総合博物館標本 F-00035, 2015 年 8 月 5 日, 長野県茅野市豊平 (桜平)、市川浩久採集

肉眼的特徴

かさは 4-6cm、初め丸山形でのちまんじゅう形。表面は黄土色から赤黄色でピロード状、吸水性はなく粘性もない。肉は厚く充実し白色で、切断するとやや青変する。味は温和で匂いはない。管孔は湾生から直生し淡黄色、のちにオリーブ色がかかる。長さは 8mm 前後で孔口は 1mm あたり 2-3 個。円形からやや角ばっていて触れると弱く青変する。柄は 7-10cm × 1.3cm 前後、円筒形で基部は少し細くなる。表面上部は赤みを帯び基部は黄色味を帯びる。全体は繊維状で時に粉状、赤みのある不完全な網目をもつ。粘性はない。質は充実し中実、白色から淡黄色で変色性はない。

顕微鏡的特徴

熱乾燥標本を用い観察には 3% KOH を使用、一部にコンゴレッドを追加した。

かさ表皮は毛状被で円筒形から棍棒形、末端細胞は幅 6.0-12.6 μ m、平均 8.7 μ m (n=20) でクランプはない。側シスチジアはやや紡錘形で 39.0-59.8 × 9.1-12.4 μ m (n=7)。担子器は棍棒形で薄壁、27.9-40.6 × 10.3-14.1 μ m で 4 孢子性。担子孢子は長楕円形から紡錘形で (13.4-)14.8-16.1(-16.9) × (4.7-)4.9-5.3(-5.4) μ m (n = 50)、縦横比 (2.80-)2.91-3.16(-3.35)、縦横比平均 3.04、淡褐色で平滑。縁シスチジアは確認できなかった。

生態的特徴

シラビソの針葉樹林内に単生から散生。

ノート

文献では側シスチジアの大きさが 27-38 × 5-7.5 μ m と本標本に比べて小さいがその他は概ね一致する。諏訪地方ではウラジロモミ林の他、亜高山帯のシラビソ林内で普通に見られる。

参考標本

F-00291, 2017 年 8 月 24 日, 長野県茅野市北山, 藤森政明採集; F-00506, 2018 年 7 月 21 日, 長野県茅野市豊平, 齋藤和春採集; F-00536, 2018 年 8 月 18 日, 長野県茅野市豊平, 齋藤和春採集

文献 Hongo T (1973) *Notulae mycologicae* (12). *Memoirs of Shiga University*, 23:37-43

担当 荒野民雄、市川浩久、岩波博文、牛山雄二、小山明人、中島年雄



図1 子実体



図2 発生状況

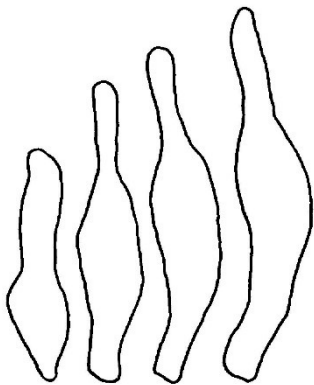


図4 側シスチジア

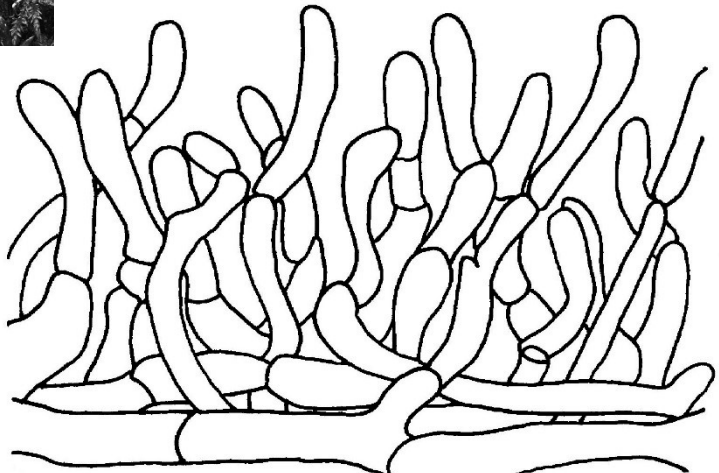


図3 かさ表皮

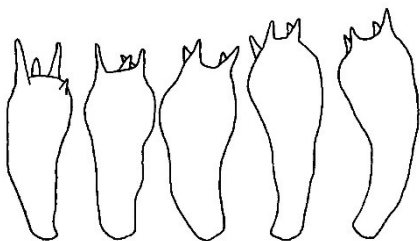


図5 担子器

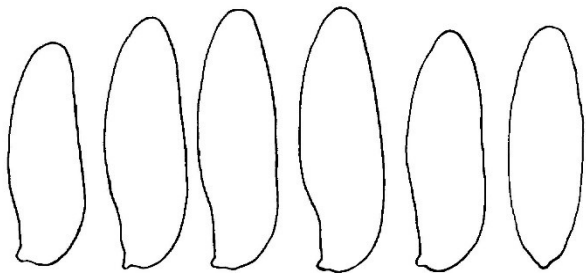


図6 孢子

スケールバー 図3 50μm、図4,5 20μm、図6 10μm